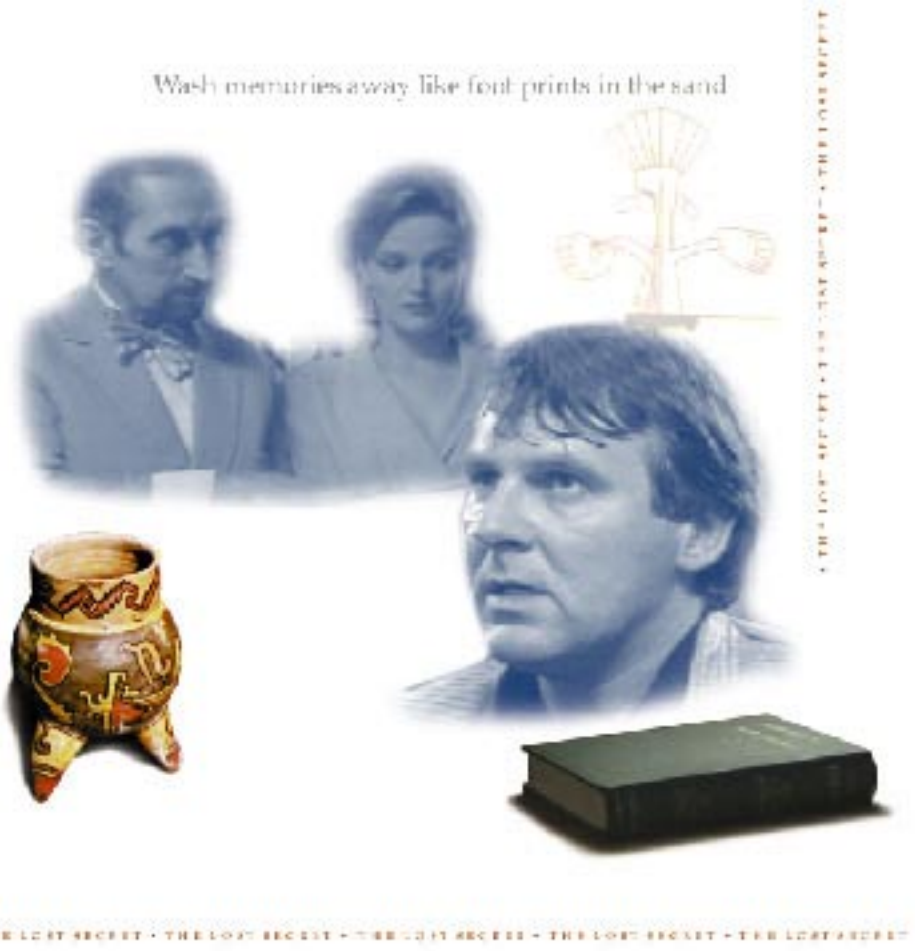
The Lost Secret



学習ガイド

DynEd International

目次

はじめに..... 3
コースの概要..... 4
レッスンの種類..... 6
学習方法..... 9
学習の秘訣..... 10
語学学習の原則..... 11
協力..... 12

はじめに

「ザ･ロスト･シークレット」へようこそ!ビデオで学ぶ新感覚の英語教材が登場しました。このコースは、英 BBC 制作のミステリードラマをダインエド社がMPEGビデオ化したもので、そのスリリングなストーリーに学習者は思わず引き込まれ、楽しみながら着実に英語を身につけることができます。ダインエド社独自のインタラクティブなプログラムによって、学習者は自分のペースで学習することができます.

このコースは、第一に基本的な英語の構文に焦点を当てています。語学を最も効果的に学習できるよう、ストーリーの展開に合わせて単語や構文が注意深く選ばれ、順序立てて導入されているのがこのコースの特徴です。また、音声認識機能を使ったスピーキング練習も数多く盛り込まれています。

第二に焦点を当てているのはリスニングで、全体の意味と細かい内容の両方を理解する能力を養うことを目標としています。学習中の英語を何度も繰り返し聞くことが英語を上達させる秘訣です。レッスン中に出てくるいくつかの質問に答えることで要点を把握し、理解度をチェックしながら学習を進めることができます。

このコースは、自己学習用として単独でご利用頂けますが、テキストと併用したり学校の授業と関連付けて学習すると更に効果的です。

コースの概要

エピソード	ストーリー	学習内容
1 & 2.	主人公オーウェルは記憶喪失である。警察官と精神科医ロバーツから質問を受ける。	平叙文、can を使った疑問文と否定文 to be を使った単純平 叙文、単純疑問文、what, where, who を使った疑問文
3.	サビーナとスラインが登場する。オーウェルは、飛行機の中での会話と南アメリカの植物を持って税関を通ったことを思い出す。	現在形、yes/no で答える現在形疑問文、can を使った依頼と申し出
4.	オーウェルは、スラインの車でホテルまで行きチェックインしたことを思い出す。	単純過去形、単純過去疑問文、ago の使い方、チェックイン、招待と辞退
5.	オーウェルがスラインの研究所でむりやりに記憶をなくす薬を飲まされた回想場面。	will を使った未来形、規則動詞、不規則動詞を使った単純過去形、過去の否定形、副詞 well の使い方、謝罪
6.	オーウェルは、原稿を盗んだスラインから電話があった事を思い出す。 サビーナがオーウェルの飲み物に何かを入れる回想場面。	going to を使った未来形、should, shouldn't の使い方、挨拶、必要を表す表現

注: このコースのエピソード番号はBBC制作ビデオのエピソード番号と一致しています。このコーでは、エピソード１と２が一つのユニットに入っていま。

エピソード	ストーリー	学習内容
7.	オーウェルとロバーツはテロ植物について調べるために図書館に行くが、必要なページをサビーナに持ち去られてしまう。	疑問文の復習、省略形の返答、should, shouldn't の使い方、比較級、too の使い方、約束、助言、提案
8.	スラインは、オーウェルに飲ませた薬がなぜ効かなかったのかサビーナに話す。 オーウェルとロバーツは、南アメリカの植物が盗まれたことをニュースで知る。	現在完了形、have to と must の使い方、too と enough の使い方、I like と I'd like の違い、反論
9.	スラインとサビーナは、ハリーを使ってより強力な薬の効果をテストしようとする。 オーウェルとロバーツはスラインの研究所に向かう。	used to, if を使った仮定法、going to と will を使った未来、現在完了形、something, nothing, anything の使い方
10.	サビーナは、ハリーとスラインに記憶をなくす薬を飲ませようとする。 オーウェルとロバーツは研究所に侵入する。	yet を使った現在完了形、副詞、is と has の短縮形、know how to. . . , know what to. . . の使い方、乾杯の表現
11.	二年後、オーウェルはロバーツに再会しメパテクス文明の失われた秘密について話す。	for とsince を使った現在完了形、could の使い方、would と had to の使い方、yet と still の使い方、already を使った現在完了形、挨拶、提案と招待

レッスンの種類

各エピソードはいくつかのレッスンに分かれています。言葉と内容が良く理解できるようになるまでそれぞれのレッスンを何度もやってみてください。

プレゼンテーション：ビデオを中断することなくストーリーを紹介するセクションです。各エピソードのあらすじをよく把握してください。

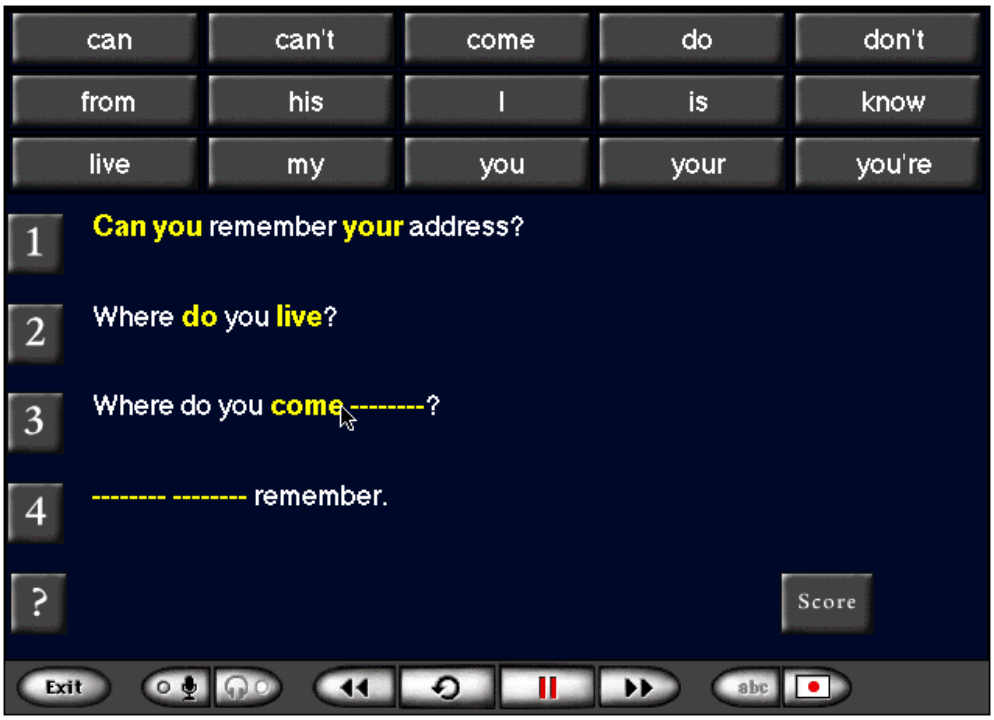
インタラクティブ・リスニング：プレゼンテーションで紹介したストーリーを、テキスト表示や翻訳ボタン等を使用しながら学習します。理解力チェックで内容を把握しているかどうか確認しますが、何回か同じ所を学習すると以前と違う質問が出る事があるので、注意して聞いてください。詳しくは、「学習方法」（P. 9）をご覧ください。

ダイアローグ･フォーカス：音声認識機能を使ったこのレッスンでは、会話の中で次に何が言われるかを予測する能力を養います。

登場人物の一人になって実際にその場面にいるつもりで会話をしてみてください。音声認識を使うことによって理解力を向上させるだけでなく、スピーキング力の向上も狙いとします。会話をよく聞き、画面に表示された選択肢の中から会話の流れに最もあった文を選んで声に出して言ってください。正解の時は会話が先に進みます。正しく答えられなかった場合は、もう一度同じ質問に挑戦できます。全ての質問を終えると、インタラクティブ・リスニングと同じように各シーンの選択メニューが画面に表示されます。

ディクテーション：このレッスンでは、ストーリーの中の重要な語句に焦点を当て学習します。

画面に表示された番号をクリックしてください。最初にビデオの一部が紹介され、次にディクテーションの画面に変わります。画面上部に語句、画面下部に所々空欄がある文が表示され、同時に読み上げられます。

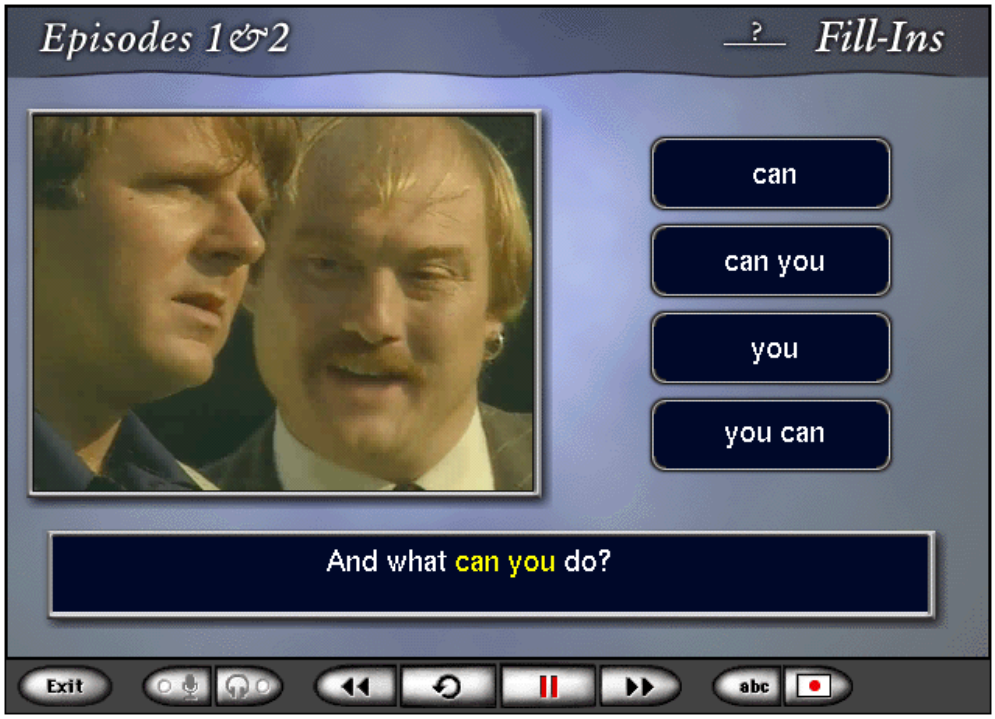


番号をクリックしてそれぞれの文をよく聞いてください。文中の空欄に当てはまる単語を、画面上部にある単語の中から見つけクリックし、次にその単語の入る空欄をクリックしてください。空欄に選んだ単語が入ります。間違いに気が付いた時は、別の単語をクリックして単語を入れ替えてください。各文の番号をクリックすると、何回でも聞くことができます。

表示された文が全部完成したら、“SCORE”をクリックすると各文が読み上げられ得点が表示されます。その際、別の色で表示された単語は間違いです。確認してください。
得点が60%以下の場合はもう一度やってみたいかどうか聞かれます。得点が60%以上の場合は、各文をもう一度聞いて、正しい単語を入れ直してください。間違いを直したら“END”をクリックしてディクテーションを終了させてください。ひとつのディクテーションが終了すると、同じディクテーションにもう一度挑戦するか、他のディクテーションに進むか聞かれます。

穴埋め練習

このレッスンでは、これまでのレッスンで学習した重要な文法と単語を復習します。



スクリーンに番号が　1ー28　まで表示されます。どれか一つをクリックすると、語句が一部抜けた文が画面に表示されます。

画面に表示された四つの選択肢の中から空欄に当てはまる語句を選んで、ストーリーの内容に合う文にしてください。正解の時は、答えの部分がハイライトされた文が表示されます。ハイライトされた単語をクリックするとその単語に関する更に詳しい説明が表示されます。

1ー28　まで全部終わらせたらスクリーン中央にある　Quiz　をクリックしてください。質問がアトランダムに出題されます。挑戦してみてください。

レベルが　2.5　以上になり自信を持って答えられるようになるまで穴埋め練習をやってください。文法の理解度を深める為に何度も繰り返し学習することをお勧めします。

学習方法

インタラクティブ・リスニングをやってみましょう。

（注）プログラムの始め方が分からない時は、ユーザーズ ガイドをご覧ください。
次の要領でやってみてください。

1. 各文ごとに一時停止ボタンをクリックしてください。緑色の矢印が点滅した状態でプログラムは一時停止します。
2. 繰り返しボタンをクリックしてください。同じ英文をもう一度聞くことができます。
3. 翻訳ボタンをクリックしてください。日本語訳を聞くことができます。
4. abcボタンをクリックしてください。英文テキストが表示されます。
5. ハイライトされた単語をクリックして用語表を参照してください。
6. 緑の矢印が点滅している一時停止ボタンをクリックしてください。点滅がとまり、次の文に進みます。

（注）コースウェアになれるまでは、気がつかないうちにプログラムが止まった状態になっている事があります。一時停止ボタンが点滅していると、プログラムは一時停止しています。プログラムを再開し先に進むには、点滅している一時停止ボタンをクリックしてください。質問されている時は、回答をクリックしてもプログラムを再開し、先に進むことができます。繰り返しボタン、翻訳ボタン、abcボタン等をクリックすると、プログラムは自動的に一時停止の状態になります。

---

7. 前記のステップを各文でやってみてください。前の文に戻るには、巻き戻しボタンをクリックしてください。レッスンの最初に戻るには、一旦レッスンを終了させてください。

8. インタラクティブ・リスニングの中の質問には時間制限があります。残り時間は、コントロールバーの右側に表示されます。

（注）回答に時間が必要なときは一時停止ボタンでプログラムを停止するか、繰り返しボタンを使って質問をもう一度聞いてください。

---

9. 初めの部分の文を何度か聞いた後に、今度は自分で言ってみましょう。巻き戻しボタンを使って最初まで戻ってください。

10. 録音ボタンを使って自分の声を録音してみてください。録音が終わったら、音声再生ボタンを押して声を聞いてみてください。次に繰り返しボタンを押してネイティブの声と自分の声を比較してみてください。このステップはヒアリングとスピーキングに効果的な練習です。文が長すぎて全部言えない時は、最初か最後の部分を繰り返してみてください。それでも難しくて言えない時は、状況をつかめるまで前後の文を何度も聞いてください。

学習の秘訣

- 最も効果的な学習をするには、まず初めにプレゼンテーションを細部にとらわれず一通り見て、おおまかな内容を把握してください。内容が大体把握できたら、次のインタラクティブ・リスニング、ダイアローグ・フォーカス、ディクテーション、穴埋め練習と進んでください。

- 表現を学ぶだけでなく、ビデオを通してボディーランゲージや表情、声の調子なども学び取るようにしてください。

- 他のダインエドソフトウェア同様、コントロール機能を使い自分の学習したい項目をいつでも簡単に選択できます。又、同じ文を何度も繰り返し聞くことが可能です。詳しい語句の説明が見たいときは用語表をご覧ください。

- 学習中は、２０ー３０分ごとに休憩をとるようにしてください。休憩は目の為には絶対必要ですし、頭を休めることでより効果的な学習ができるでしょう。又、学習した事を着実に身につけるには復習が大切です。時間をかけて各レッスンを何度も練習、反復してください。

- 音声認識機能は、最新の画期的な機能です。正確な発音を指導するという事に関しては、まだ技術的に限界がありますが、スピーキングの良い練習になります。音声認識機能に関する詳しい説明は、ヘルプメニューを参照してください。

- 語学を学ぶ事は、楽器を練習するようなものです。時間をかけて何度も練習、反復し、身につけなくてはなりません。各レッスンでより多くの時間を費やす程、多くの事を学ぶことでしょう。しかし、楽器の練習と同じ様に、効率良く時間を使わなくてはなりません。学習をする時は常にそのセッションの目標や目的を設定して行うと良いでしょう。そうすることで、さらに集中した学習ができ、語学習得の長い道のりをより容易に乗り越えることができます。

語学学習の原則

このコースは語学の学習に重要な次の項目を念頭に構成されています。

一時記憶の活用：短い句を理解して繰り返すには、一時的に句を記憶することが必要です。文全体を記憶できるようになるまで短い句を何度もくり返し聞くことが重要です。

言葉の機能：ビデオを通して紹介されるストーリーや練習問題は、英語での会話をスムーズに運ぶ鍵である「言葉の機能」を学習する手助けとなります。

渦巻き学習：このコースでは、エピソードが変わり、違う話題になっても、前のエピソードで学習した文法、語意などを何度も繰り返し学習しながら表現力や知識を拡大します。

理解力：文全体を理解するには、まず大まかな意味を理解しなくてはなりません。その為に、各レッスンで視覚的補助となるグラフィックが提供されている他に、英文を表示したり日本語訳を聞くことができます。また用語表を利用して、単語の意味や文法を更に詳しく調べることができます。

タスク・ベースト・ラーニング：課題に取組みながら段階を追って学習すると、目的意識がはっきりするので集中力がつき、課題ができたという達成感が生まれます。ザ・ロスト・シークレットの各レッスンには、インタラクティブな課題がたくさん盛り込まれています。

文脈：言語は文脈の中で使われるものであり、文脈は使われる言葉に状況を提供するものです。従って語学教材で使われる文脈は、学習者自身の生活や、置かれている状況にあった適切なものでなければなりません。ザ・ロスト・シークレットでは、ホテルのチェックインやレストランでの場面など、日常生活で実際に起こりうる場面の中で言語を紹介します。

実践への応用：語学学習を意味のあるものにするには、コース学習中に紹介された状況を自分なりに応用することが必要です。ザ・ロスト・シークレットは、あるストーリーを紹介していますが、学習した言葉やコンセプトは、他の様々なニーズや状況に置き換えて活用することができます。

協力

インタラクティブ ビデオ

Content Consultant ..... Robert O'Neill

Video Production..... BBC English

Video Editing ..... Haukom Associates, San Francisco, CA

Courseware Design..... Lance Knowles, DynEd International, Inc.

このコースは、1989年 英BBCにより制作されたビデオ（Robert O'Neil / Martin Shovel 脚本）The Lost Secret を基にした教材です.

オリジナル ビデオ

Script written by ..... Robert O'Neill Martin Shovel

Producer ..... Jeremy Orlebar

Director..... Peter Sykes

キャスト

Dr Ross Orwell ..... Tom Wilkinson
Professor Basil Sline..... Vladek Sheybal
Sabina Woolford..... Miranda Richardson
Dr Clare Roberts..... Karen Archer
Harry Grotch..... Dicken Ashworth
Inspector Marvin ..... Robert Davidson
with..... William Abney, Joan Blackham, Clive Corener, Anni Domingo, Brian Grellis, Sally Home, Nicolette McKensie, Henry Moxon, John White, David Barry, Graham Callan, Jocelyn Cunningham, Philip Goldacre, Bob Hewitt, Alex Leppard, Adrian Mills, Brian Osborne, Victoria Williams

制作

Camera ..... Chris Cox, Ken Wensley
Sound..... Chris Barton, Wouter van Herwerden
Production Manager ..... David Shanks
Video Tape Editor ..... Geoff Beames
Music..... Kevin Stoney
Costume..... Pauline Daly
Design..... Judy Steele
Video Production..... Tim Fell & Workhouse Productions

DynEd Courseware is protected by international copyright and patent laws.
No part may be copied without written consent of DynEd International, Inc.

Copyright©2000 DynEd International, Inc. All rights reserved.

- 本製品の一部または全部を無断で複写、転載することを禁じます。
- 本製品の内容は、改善の為予告なしに変更することがあります。

QuickTimeとQuickTimeロゴは法的に使用許可を得た商標です。

All trademarks and registered names used in this document are the property of their respective owners.
QuickTime™ and the QuickTime logo are trademarks used under license.

Version 3.1